

CSR report

クラウン・パッケージ
CSRIレポート 2023

クラウン・パッケージらしい
CSR活動をめざして。



クラウン・パッケージは、これまで木材の消費を抑え
廃棄量を少なくするための薄くて軽いパッケージの開発や、
昨今廃棄が問題になっているプラスチック容器の代替となるような
紙の食品容器の開発などに取り組み、さまざまなパッケージを取り揃え、
皆様にお届けしてきました。

私たちは、これからも世の中の課題の解決につながるパッケージを
開発するとともに、従業員一人ひとりがサステナブルな
パッケージ文化の創造に寄与することで持続可能な社会の実現に貢献していきます。

バリットボックス®

カッターを使わずに手で「バリッ」と簡単かつ安全に開封可能で、そのまま店頭で商品を陳列できるパッケージです。品出し、箱の解体などの作業を少なくすることで作業者の負担を減らします。

詳細はP11

「社会課題の解決に寄与する製品の開発と推進」へ

カラフルウィッシュ®

広島市の平和記念公園に世界中から届く約1,000万羽の折り鶴を無駄なく再資源化した再生紙です。売り上げの一部は、より良い社会づくりを支援するための寄付金として活用されます。

詳細はP11

「社会課題の解決に寄与する製品の開発と推進」へ



目次

クラウン・パッケージのCSR活動方針とマテリアリティ

3 トップコミットメント

CSR経営を積極的に進め、お取引先を含めた
 サプライチェーン全体で社会課題の解決に貢献します

5 CSRに対する考え方

クラウン・パッケージのESG活動

7 環境に関わる活動

パッケージも、地球も美しく

9 社会に関わる活動

働きやすい職場だからこそ、
 良いものが生まれる

13 企業統治(ガバナンス)に関わる活動

“もしも”に備えるから、安心して働ける

編集方針

本レポートは、お客様やお取引先、地域社会など幅広いステークホルダーの皆様に向けて、クラウン・パッケージのCSRに対する思いや方針、社会的責任を果たすために取り組んださまざまな活動について、わかりやすくお伝えすることを目的に発行しました。

対象範囲	株式会社クラウン・パッケージ	対象期間	2022年4月1日～2023年3月31日 (2022年度の実績を中心に一部本期間以前の情報を含め報告しています)
発行月	2023年10月		
次回発行予定	2024年10月		

スマートパピエ®

サプリメントを製造する際に生じるブルーベリーの搾りかすや、食用色素を製造する際に生じる紅花の花びらなど、一度役目を果たした素材を再資源化したエコロジーペーパーです。パッケージ素材に活用することで木材パルプの使用量を削減することができます。

マイクロフルート

通常よりも極めて薄く、ねじれやちぎれに強い段ボールです。その高い強度はプラスチックに替わる存在として注目され、リサイクルも可能であることから幅広い分野で活躍しています。





**CSR経営を積極的に進め、
お客様を含めた
サプライチェーン全体で
社会課題の解決に貢献します**

代表取締役社長 佐光 恵藏

クラウン・パッケージがCSRに取り組む意義

現代の企業経営において、CSRは自らの姿勢を示す重要なキーワードになっています。さまざまな業界に包装資材を提供いたします当社の場合、サプライチェーン全体でCSRに取り組む観点から、最近はお客様からの当社の取り組みに関するアンケートの依頼が増えてきました。品質やコストだけでなく、従業員の労働環境やダイバーシティ、地域社会との共存など、従来の企業間取引であれば求められることがなかった要請が多くなったことを実感しています。今や非財務分野の企業価値向上に真剣に取り組まなければ、社会から取り残される時代であることを認識しなければなりません。ビジネス面のみならず、就職活動中の学生の皆様からもCSRに関する質問が増えているなど、有能な人材を確保するという点でもCSRは重要なファクターとなっています。

当社が注力すべき重要な取り組み

CSRのなかでもCO₂排出量削減は、製造業である当社にとって優先順位の高い取り組みです。生産量が増えるほど排出され

るCO₂が増えてしまう現実があるなかで、業績の向上を図りながら一方ではCO₂の削減を図るという、相反することを実践しなければなりません。

そこで当社が力を入れているのが新素材の開発で、紙の原料として伐採される木材を使わない100%非木材紙「ピュアパーム」はその一例です。世界で最も生産量が多い植物油はパーム油ですが、その製造過程で排出される搾りかす【ヤシカサ】を原料にした紙の開発に取り組んでいます。搾りかすは放置され腐敗すると、パームヤシが成長過程で吸収した温室効果ガス(CO₂・メタンなど)を排出してしまいます。【ヤシカサ】を紙として有効利用することで温室効果ガスの排出を抑え、炭素の固定化にもつながります。そして、この紙をリサイクル率の高い段ボール素材として活用することで、持続的な資源循環に貢献していきます。また、CO₂排出量の多い重油を使うボイラーから、排出量の少ないLNGや都市ガスのボイラーへの切り替えを進めています。省エネ活動や省エネ機器への切り替えも実施したことにより、2022年度は生産量が2018年度比110%と拡大しながらも、CO₂排出量は2018年度比93%に削減することができました。そして、社会全体で脱炭素化をめざすという流れに対応するため、今後は再生可能エネルギーの導入を積極

的に進めることで、2030年までにCO₂総排出量を2018年度比で30%削減するという目標を掲げています。

さらに、2022年度に注力した取り組みとして、人権尊重とダイバーシティ、そしてガバナンスの強化が挙げられます。ダイバーシティについては、製造現場で女性にも活躍してもらえる職場づくりをめざし、現状の問題点の洗い出しと同時に、すぐに着手可能な課題から改善するなどスピード感を持って進めています。人権尊重では、制度やシステムだけではなく従業員一人ひとりの意識こそが重要であると考え、専門の相談窓口を設置したほか、社外から講師を招いて研修会を実施するなど、意識改革にも力を入れています。

一方ガバナンスの強化については、各事業所のトップをコンプライアンス責任者とし、各部門長が推進役となって企業行動規範の浸透を進めてきました。また、リスクマネジメントのなかでも情報セキュリティのリスクが世界的に高まっていることから、本社情報システム部を中心にセキュリティ教育を強化し、全従業員がIT自己点検を実施するなど、従業員の情報セキュリティに対するリテラシー向上を図っています。

SDGsへの貢献につながる イノベーション力を強化

またSDGsでは、その目標達成のために「社会に変革をもたらすイノベーション」が求められていることを踏まえ、環境配慮

型製品や社会課題解決に寄与する製品の研究開発も当社の重点課題だと考えています。包装資材の場合、中の商品を保護する機能を満たしたうえで軽量化・小型化を進めると、省資源のみならず輸送時におけるCO₂排出量を削減することにつながります。またプラスチック包材の代替製品を紙で開発すれば、海洋プラスチック問題の解決に貢献することになります。そこで、当社は素材の変更や新形状の研究開発を進め、プラスチックを使用するパッケージから段ボールのみの包材への切り替えをご提案し、お客様のプラスチック包材削減に貢献しています。

ステークホルダーの皆様へ

今や、「売上目標、生産目標、利益目標を達成する」という古い価値観だけでは持続可能な企業として成長することができません。従業員一人ひとりがCSRビジョンの達成に向け、意識を共有し同じベクトルで活動することが重要だと考えています。そのため各事業所の目標のなかに「CSR3カ年アクションプラン」を設定し、従業員一人ひとりの身近な活動を通じて浸透させていくことをめざします。CSR経営を積極的に進めることで、サプライチェーンにおける役割を果たすだけでなく、お客様の社会課題解決に貢献できるよう、これまで以上に素材・形状の開発、物流の効率化に努めてまいります。ステークホルダーの皆様には、これまで以上のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

CSR3カ年アクションプランと理念

従業員一人ひとりの身近な活動を通じて、社会に貢献していく

カテゴリー	目標	2022年度の取り組み
環境(E) 	燃料転換によるCO ₂ 削減	<ul style="list-style-type: none"> ● ボイラー燃料を重油からLNGや都市ガスに切り替え ● CO₂排出量2018年度比6%削減
社会(S) 	人権尊重と ダイバーシティに注力	<ul style="list-style-type: none"> ● 問題点の洗い出しと迅速な課題解決の推進 ● 専門相談窓口の設置 ● 外部講師による研修会の実施
ガバナンス(G) 	全従業員参加型による ガバナンスの強化	<ul style="list-style-type: none"> ● 各事業所トップをコンプライアンス責任者に任命し 全社に企業行動規範の浸透を推進 ● 全従業員に情報セキュリティのリテラシー向上のための教育を実施

CSRに対する考え方

私たちクラウン・パッケージは「パッケージ文化の創造を通じて持続可能な社会の実現に貢献する」との企業使命のもと、環境に配慮した事業運営や、安全かつ安心して働ける職場づくり、人に配慮した製品の開発に日々邁進しています。CSR経営をより具体的に実現していくための羅針盤として、2021年にマテリアリティを特定しCSR基本方針を定めたほか、全社横断的なCSR推進組織を立ち上げ活動を進めています。また2030年に向けたCSRビジョン、環境ビジョンを以下のとおり定めています。

CSR基本方針

私たちは永遠のベンチャー企業精神を持ち続け、
未来の当たり前をつくることをめざし、
あらゆるステークホルダーの皆様から愛され信頼される企業活動を行います。

- 1 パッケージを通して社会からの期待に応えるとともに社会課題の解決に取り組みます
- 2 環境に配慮した事業運営を行い、脱炭素社会、循環型社会の実現に貢献します
- 3 人権と多様性を尊重し、誰もが生き生きと働き活躍できる職場づくりをめざします
- 4 高い倫理観のもとコンプライアンスを重視し、公正・公平な企業活動を行います

CSRビジョン2030



**CO₂総排出量
2018年度比30%削減**



**多様性を尊重した人材活用
(ダイバーシティ雇用30%以上)^{※1}**



**ガバナンスの強化
(コンプライアンス、リスク管理、BCP)^{※2}**

※1 ダイバーシティ雇用: 女性、障がい者、外国籍の方、高齢者の雇用。

※2 コンプライアンス: 法令遵守だけではなく倫理的な企業活動も含む。

BCP(Business Continuity Plan: 事業継続計画): 自然災害、システム障害など、緊急事態が発生した場合でも重要な業務が継続できる方策を立て、事業継続と復旧を図るための計画。

環境ビジョン2030

重点領域	2030年の目標
温室効果ガス排出量の削減	<ul style="list-style-type: none">● CO₂総排出量2018年度比30%削減● 再生可能エネルギーの導入と活用
資源循環	<ul style="list-style-type: none">● 天然資源の持続可能な利用の推進● 廃棄物のリサイクル率99%以上

マテリアリティ(重要課題)

マテリアリティとは、CSRに関わる幅広い取り組みのなかで自社の事業活動や社会に与える影響度から判断し、とくに注力すべきものとして特定した課題のことです。当社では、自社に

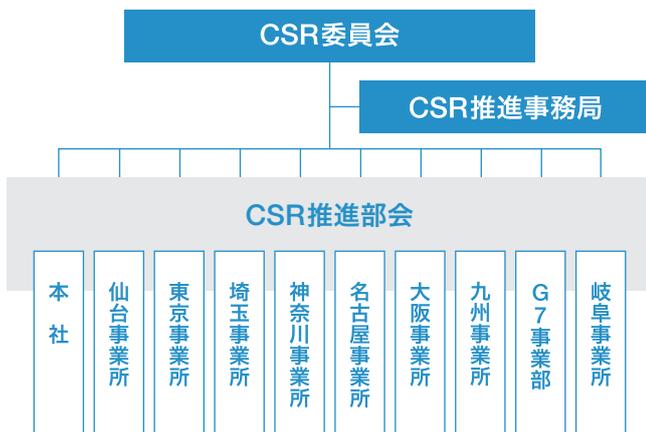
とっての重要度のみならず、各ステークホルダーにとっての重要度を反映してマテリアリティを特定しました。

	マテリアリティ(重要課題)	貢献するSDGs
 環境 E	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境に配慮した事業運営 P7-8へ	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境配慮型製品の開発・推進 P8へ	
 社会 S	<ul style="list-style-type: none"> ● 人権の尊重 ● 安心して長く働ける職場環境の整備 ● 多様性を尊重した働き方の推進 P9-10へ	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 製品の品質向上と安全性の確保 ● 社会課題の解決に寄与する製品の開発と推進 P11へ	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域社会との調和と社会貢献活動 P11-12へ	
 企業統治 G	<ul style="list-style-type: none"> ● 内部統制と透明性の確保 ● コンプライアンスの推進 P13-14へ	
	<ul style="list-style-type: none"> ● リスク管理 P14へ	

CSR推進の取り組み

CSR活動を効率的に推進するための専門組織として、社長をトップとした「CSR委員会」を立ち上げました。また、その下部組織として本社および9つの事業所・事業部ごとに「CSR推進部会」を設置し、活動の推進・定着とともに拠点間で連携し

た活動も行っています。総務・製造の2部門は、部門別のCSR推進部会も定期開催し、総務部門では「多様性を尊重した人材活用」を、製造部門では「エネルギーロスの削減や高効率機械への切り替え」をテーマに取り組んでいます。



CSR研修会集合写真



Environment

環境に関わる活動



環境に配慮した事業運営

KEY PERSON
INTERVIEW

パッケージも、地球も美しく



東京事業所 製造部 次長 **星野 義知**

Profile

東京事業所の製造部門のトップとして、CSR製造部会に参加し、現場従業員にその内容を伝えている。

本社 製造統括 次長 **鈴木 順**

Profile

全社製造部門の統括責任者として、普段は工場監査を担っている。CSRビジョン達成のため、2022年にCSR製造部会を立ち上げた。

ものづくり企業としての責任を全うするために

鈴木: CSR製造部会は、各拠点の製造責任者や製造部門のトップが一堂に会し、製造現場におけるCSR活動の現状を確認するとともに、これから取り組むべきことを検討するために立ち上げた組織です。製造部門で働く人が、気軽にCSRに関して質問をすることができる相談窓口にもなっています。私はこのCSR製造部会のなかで、社内で実施した具体的なCSR活動の評価・軌道修正と全社展開、省エネ機器の新規導入に関する効果検証などの役割を担っています。

製造現場において力を入れているのが、省エネや創エネによるCO₂排出量の削減です。今、最も効果を上げているのが燃料切り替えによるCO₂削減で、ボイラーの燃料を重油よりCO₂排出量の少ないガスに切り替えた結果、大きな成果につながっています。また将来的には社内全設備1台ごとの消費電力量の計測を進め、稼働状態からさまざまなロスや無駄を見える化し、改善に移していくことが環境活動につながっていくと考えています。

また今後は開発部門と連携し、生産性が高く環境に優しい新製品の開発にも力を入れチャレンジしていきたいと思っています。

効果を「見える化」し、現場のモチベーションに

星野: 製造部門のCSR担当者として、製造工程の効率改善、とくに製造時間を短縮して省エネにつなげることに取り組んでいます。またCSR製造部会に出席し、ほかの拠点で効果があった施策の資料などを読み込んで、自分の部署にも導入可能かどうか判断をする役割も担っています。現場で働く従業員にとっては、施策の効果を「見える化」することが重要で、例えばボイラーの更新では、重油ボイラーの償却期間が残っているにもかかわらずLPガスボイラーに更新したのですが、CO₂削減量が「目に見えた」ことで、更新効果があったとわかりました。工場で現在取り組んでいる効率改善や時間短縮もCSRに直接つながっていると実感しにくいので、改善による電力削減量を「見える化」し、従業員がやりがいを持てるようにしたいです。

環境ビジョン2030へのチャレンジ

CO₂排出量は2018年度比で6.1%削減を達成

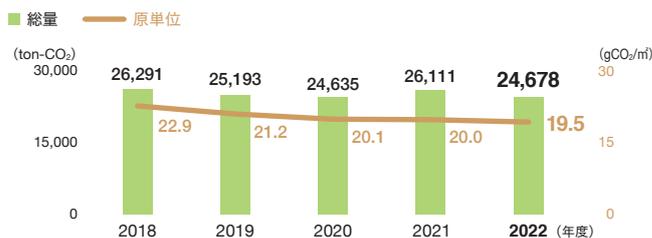
当社のCO₂排出量は、大部分が生産活動に起因するものになっています。Scope1の削減においては、重油ボイラーからLPガスボイラーへの切り替えや、工場内で使用するLPガスリフトの電気リフトへの切り替えを進めた結果、2021年度比で6.7%、2018年度比で7.2%削減できました。

Scope2の削減においては、製造部門では時間当たりの生産性を向上させ、総作業時間の短縮、消費電力の削減を進めた結果、2021年度比で3.9%、2018年度比で4.8%削減でき、「環境ビジョン2030」の目標であるScope1とScope2を合わせた総排出量では2018年度比6.1%の削減となりました。今後も省エネ診断などを継続するとともにエネルギー使用量のより詳細な見える化を進め、CO₂排出量の削減に努めていきます。



省エネ診断の様子

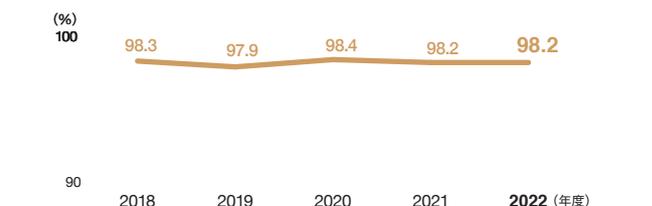
CO₂排出量



廃棄物排出量



リサイクル率



環境配慮型製品の開発・推進

パーム油の副産物をアップサイクル※

日本で初めてパームヤシカサを使用した紙を開発・販売

「パームヤシックス®」は、パーム油を製造する際に生じるヤシカサの繊維を有効活用した“アップサイクル紙”です。当社のパッケージ製品に使用することで、パームヤシが吸収したCO₂を固定化できるだけでなく、放置・腐敗による温室効果ガスの発生を防ぐことができます。森林資源の使用量削減にもつながるので、地球温暖化の抑制に貢献します。

※リサイクルとは異なり、新たな価値のあるものを生み出すこと。



パームヤシックス®ができるまで

分別したくなる食品容器

ごみになる部分だけ「ペリッと」と剥がせる容器を開発

「ペリッとラミ®」は、使用後にフィルムを剥がしてリサイクル可能な紙と分別することで、「廃棄物の削減」や「紙のリサイクル率向上」に貢献できる素材です。消費者の楽しみながら分別するという意識を喚起します。



ペリッとラミ®

「ペリッとラミ®」でスポーツ観戦時のごみを削減

スポーツの試合会場で営業するキッチンカー向けに「ペリッとラミ®」の食品容器を提供。フィルムを剥がすことで簡単にリサイクルに参加できるという新しい体験をお届けしました。



Social

社会に関わる活動

多様性を尊重した働き方の推進

KEY PERSON
INTERVIEW

働きやすい職場だからこそ、良いものが生まれる



名古屋事業所 営業1部 営業管理課 課長代理 **森 秀雄**

Profile

名古屋事業所で責任ある立場として熱心に働く一児の父。後輩従業員が育児休業を取得したのを機に、自身も育休を取得することに。



埼玉事業所 業務部 **福島 恵美**

Profile

くらうん保育園に子どもを預けながら埼玉事業所で働く一児の母。仕事と育児を無理なく両立し、第二子の出産も決意している。

事業所内の「くらうん保育園」が 私らしい働き方を支えてくれた

福島:私は、もともと九州事業所で働いていましたが、関東方面への異動が決まりました。知り合いもない地での育児に不安を抱えていました。そこで九州事業所の所長から「くらうん保育園」がある埼玉事業所で働くことを勧めていただき、これが異動を受け入れる決め手となりました。子どもが保育園に入れないと仕事に復帰しづらいという話は聞いていましたし、2歳くらいまでの手のかかる時期であればなおさらです。くらうん保育園は0歳から預けることができるので、その点も一般の保育園を利用するよりありがたかったと思っています。

勤めている会社に保育園があることのメリットを挙げればきりがありませんが、通勤時間プラス5分くらいで子どもを預けられますから、速やかに仕事に取りかかれますし、仕事でも子どもたちの楽しそうな声が聞こえるので安心感が違います。子どもが体調を崩した時も数分で駆け付けられることが出来るうえ、内線で連絡が来ますから周囲の理解も得やすいです。

今は自分なりに優先順位を付けて仕事に向き合うことができます。

育児休業を取得したことで、子育ての大変さを実感

森:法定の育児休業と会社独自の子育て支援休暇を合わせて2カ月間取得しました。独自制度の方は4日間ですが、給与が100%保証されます。法定の育児休業給付金は賃金の67%ですから、それだけでもありがたいと思いました。自分の前にも男性の育休取得実績がありましたし、職場のチーム全体で私がない間の体制を整えてもらえたので、思い切って取得に踏み切ることができました。休業中は、とにかく育児は大変だと思い知らされました。子ども中心の生活リズムが変わり、睡眠もままならない日が続いて、育児は夫婦二人で協力しても大変なのだ実感しました。育休から復帰後も育児をするという意識が強く残っていて、早めに帰宅する日が増えています。

2030年までにダイバーシティ雇用※ 目標30%以上

2022年度のダイバーシティ雇用は19.3%

性別・人種・年齢などに関係なく、“誰もが自分らしく活躍できる職場”をめざして、風土形成、制度改革に取り組んでいます。

2022年度よりスタートした「CSR総務部会」では、各拠点間で多様性のある人材雇用を推進する施策の立案や取り組み事例の紹介など情報共有を図り、さまざまな価値観を持った人たちを受け入れる体制を構築しています。

現在は女性活躍が中心ですが、誰もが働きやすい職場をめざして、今後も活動を継続していきます。

※ダイバーシティ雇用：女性、障がい者、外国籍の方、高齢者の雇用。

女性オペレーターに優しい機械を導入

製造現場では、力が必要な業務も多く男性比率が高い状態にありました。現在は、女性でも適切に対応できるよう設備改良を進め、毎年女性比率が増加しています。



女性オペレーターが機械をセットしている様子

安心して長く働ける職場環境の整備

安全への取り組み

設備安全・社内教育・労働災害の未然防止活動を通じて年間事故数を削減

各事業所に安全責任者を配置するとともに、危険を体感できる「安全道場」や安全装置の作動を体感する「緊急停止訓練」を実施するなど、作業中でも危険を感じた際に“設備を停める勇氣”を持たせる教育を進めています。



緊急停止訓練の様子

製造リーダーマネジメント研修

若手・中堅従業員を対象とした集合研修を実施

製造現場の将来を担う若手・中堅従業員のサポートを目的に、各事業所から参加者を選抜した集合研修を年1回実施しています。自己分析からチームでの課題解決まで、リーダーに必要なスキルを学び、創造力・発想力の向上をめざします。



製造リーダーマネジメント研修の様子

強度率※の推移



※強度率：1,000延べ実労働時間当たりの延べ労働損失日数をもって、災害の重さの程度を表したものです。

イクボス研修

管理職がワークライフバランスを考える機会を提供

「ワークライフバランス」をテーマに管理職層が部下とのコミュニケーションの取り方などを学ぶ「イクボス研修」を行っています。「イクボス」の定義である「職場でともに働く部下の“仕事と生活の両立”を考え、その人の人生とキャリアを応援しながら、組織に貢献し結果を出す人材を育てることのできる上司」になることで、共働き世帯・介護を担う従業員への配慮とともに若手の離職防止にもつなげています。



Social

社会に関わる活動

社会課題の解決に寄与する製品の開発と推進

開封しやすく、作業者の負担を減らす パッケージ

バリッと開封、すぐに陳列できる「バリットボックス®」

「バリットボックス®」は、売り場で販売員の方が簡単に開封・陳列できる包装形態でありながら、印刷やPOPによるプロモーション効果も期待できる機能的なパッケージです。

カッターやハサミなどを使わずきれいに開封できるため、誰でも簡単かつ安全に陳列作業を行えます。

棚置きや床置き、吊り下げタイプなど、売り場に合わせた陳列方法を自由に選べることも魅力です。お客様の満足度を高めるとともに、梱包資材を削減し、商品非接触の品出しなどにより作業者の負担を軽減することもできます。



広島平和記念公園の折り鶴を パッケージにリサイクル

「カラフルウィッシュ®」として折り鶴がよみがえる

広島市の平和記念公園には毎年約1,000万羽の折り鶴が届けられますが、当社は展示後の折り鶴を「カラフルウィッシュ®」という紙素材にリサイクルし、パッケージにしています。売り上げの一部は、日本ユネスコ協会連盟へ寄付しており、被災地子どもたちへの奨学金支援活動や発展途上国に学びの場所をつくる活動などに役立てられます。「カラフルウィッシュ®」には、子どもたちに明るい未来を届けたいという平和のメッセージが込められています。



地域社会との調和と社会貢献活動

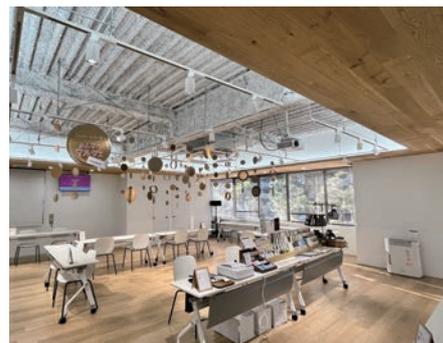
地域の人のための レンタルスペースを運営

地域住民とクリエイターをつなぐマルシェを開催

「あらゆる人たちが使いたくなる、過ごしたくなる」クラウン・パッケージが提供する交流空間『みんなのはこ』をコンセプトに、大阪クラウンビルの一部を貸会議室として運用しています。通常は手頃な料金で一般のお客様にサービスを提供していま

すが、NPO法人と連携して地域子どもたち向けの無料学習支援塾を開校するなど、地域の交流を促すイベントも開催しています。

2022年度は、10月15日・16日の2日間、利用者同士の交流と地元地域の活性化を目的としたマルシェを開催しました。当日は、物販をはじめワークショップや軽食など27のブースを展開し、地域のコミュニケーションの場として多くのお客様にご来場いただきました。



みんなのマルシェ2022の様子

中高生を対象に就業体験の機会を提供

事業所近辺の3校を対象に、就業体験を通じて就職活動を支援

2022年度は、九州事業所の近辺にある、鳥栖工業高校・田代中学校・障がい者支援施設九千部学園の3校の生徒を当社の製造現場に招いて就業体験を実施しました。カートンの作成、ラベル貼り、バラシ作業などを行い、実際の現場で働くことを通じて学ぶことの意義や大切さを実感してもらえる機会を提供しました。

この就業体験に参加した学生が当社に入社した実績もあり、当社にとっても優秀な人材の確保につながっているため、今後も引き続き受け入れを実施していきます。



就業体験の様子

フードバンクの取り組み

フードバンクへ余剰の飲料・食品を継続的に提供

東京事業所の取り組みとして、地元の行政機関や「セカンドハーベスト・ジャパン」等のNPOが運営するフードバンクに対し、夏場に従業員向けに配布を行った飲料品の余りや賞味期限が迫っている備蓄品などを提供しています。提供できる量は少量ですが、賞味期限が迫っている備蓄品などは毎年必ず発生しているため、今後も継続的に提供を行っていきます。



フードバンクへの寄付の様子

社会関連データ

従業員数



1,824名
男性 1,455名
女性 369名

平均年齢



男性 **38.3歳**
女性 **36.8歳**

平均勤続年数



男性 **15年5カ月**
女性 **8年11カ月**

管理職比率



男性 **97.3%**
女性 **2.7%**

新卒採用数



男性 **54名**
女性 **15名**

中途採用数



男性 **234名**
女性 **55名**

障がい者雇用率



2.76%



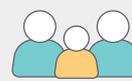
有給休暇取得率



61.2%



育休取得者数



男性 **14名**
女性 **16名**

※すべてクラウン・パッケージ単体での計算。



Governance

企業統治（ガバナンス）に関わる活動



内部統制と透明性の確保

KEY PERSON
INTERVIEW

“もしも”に備えるから、安心して働ける



埼玉事業所 総務課 主任 **鈴木 亜由美**

Profile

埼玉事業所の「クラボス^{※1}」の相談担当を務める。
埼玉事業所が働きやすい環境になるよう、日々アンテナを立てている。

本社 財務経理部 法務課 課長代理 **大竹 弘晃**

Profile

ガバナンス推進担当としてCSRを率先垂範。
各規程整備、従業員研修で風通しの良い会社をめざしている。

個人情報保護に対するリテラシー向上のために

大竹: 当社は、もともと個人情報に接することが少ないB to B^{※2}の会社で、情報漏洩などの問題を起こしたこともなかったため、個人情報保護への意識が高いとは言い難い企業風土がありました。2005年のプライバシー・ポリシー制定が、そうした雰囲気を見直すきっかけとなり、現在ではB to Bであっても企業の社会的責任として個人情報を守らなければならないという意識が根付いてきたと感じています。

個人情報保護の重要性を周知させる方法として、取締役会や経営会議に参加する上層部の役員から徐々に範囲を広げていくことで成果につながりました。会議に参加した各事業所長が自身の統括する事業部に持ち帰り、得た知識を管理職クラスに伝え、さらにそこから一般従業員に伝えていくという“トップダウン”の形で周知を図ったのが良かったと思っています。問題の発生を未然に防止する意味でも、責任者を定め、そこから意識を高めることが大切だと改めて認識しました。基本的な考え方は社内でも共有できたので、今後はさらに実践に則した研修

を役員向けからスタートさせて、個人情報保護に対する全従業員のリテラシー向上を図っていきたいと思います。

通報窓口を気軽に利用できる雰囲気づくりが大切

鈴木: 私は、法令違反やハラスメントなど、社内で気になったことを相談できる内部通報の窓口を担当しています。気軽に利用できるよう「クラボス」という愛称を付けるなど、相談しやすい雰囲気づくりを心がけています。社内報で周知を図った際にも、違反や不正の事例をイラスト化したり、身近な人間関係の悩みも相談できることを平易で親身な表現でアピールしたりしました。実際の相談事例は、自分はハラスメントをしているつもりはないのに相手から誤解されやすいなど、人間関係の悩みがほとんどです。今後クラボスの認知が広がれば、不正やハラスメントの相談もあるかもしれません。その際は、相談者の気持ちに寄り添いながら、誠心誠意対応したいと思っています。

※1 クラウン・パッケージの社内通報窓口のこと。

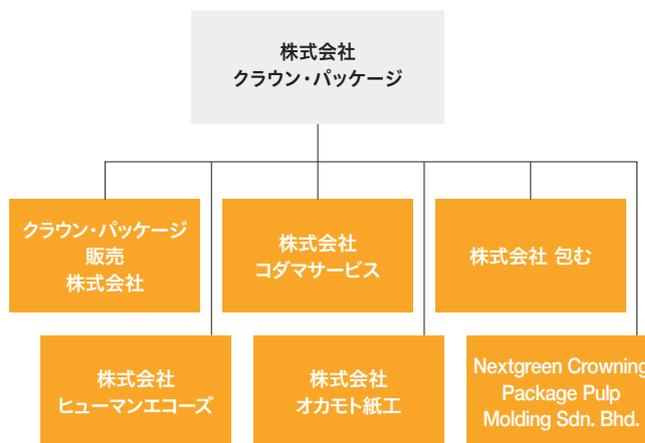
※2 Business to Businessの略称。仕事の相手（製品やサービスを提供する顧客）が消費者ではなく、対企業であるビジネスモデル。

資本政策

意思決定の迅速化とともに 内部統制と透明性の確保を図る

資本政策の一環として株主構成の最適化を図ることを目的に、株式交換方式の手法を用いて株式会社クラウン・パッケージを事業持株会社とするホールディングス化を実現しました。

これにより、意思決定の迅速化および安定株主の構築が可能となり、継続的な事業の発展を望める経営基盤が整備できました。



クラウングループのホールディングス化図



コンプライアンスの推進

コンプライアンスの社内浸透

毎年研修を見直すことで従業員の理解を促進

法令違反の未然防止と発生した際の対処法を理解することで、お取引先の信頼向上に努めています。毎年、新入従業員向けにコンプライアンス研修を実施するとともに、2022年度は管理職候補を対象とした研修を実施したことで、ルールや常識を統一し、会社と従業員の間にあった認識のズレの解消につながりました。



コンプライアンス研修の様子

海外法規への対応

海外では、現地の法令をつねに確認して対処

マレーシアにおけるパルプモールド製造の合併会社であるNGCP社をグループ傘下に招き、2023年度より本格稼働を開始します。現地の監査法人、取引先などから最新情報を入手するとともに合併パートナーと協議を重ね、現地の文化や慣習にも配慮しながら実効性のある社内体制とガバナンスの構築を進めています。



NGCP社



リスク管理

リスクアセスメント

事前にリスク評価を行い、注力すべきリスクに対応

2022年度に引き続き、2023年度に想定されるリスクアセスメントを実施しました。2023年度は、物流業界の2024年問題によるトラックドライバー不足やそれにもなう配送遅延などのリスクが想定されることから、人材確保へ向けた働きやすい職場環境の整備を図っていきます。

2022年度に注力すべきリスクとした12項目に対しては、すべて対策を講じた一方で、労働安全衛生と人材確保については2023年度も引き続き対応していく予定です。

2023年度に向けたリスクアセスメント

自然災害・事故

2項目

財務・経理

1項目

運輸・物流

1項目

人事・労務
(就業・安全)

3項目

会社概要

商号	株式会社クラウン・パッケージ
本社所在地	〒485-8654 愛知県小牧市小針三丁目67番地
創立	1962年6月15日
資本金	1億円
従業員数	2,195名(グループ全体) 1,824名(単体)
関連会社	株式会社 包む クラウンパッケージ販売 株式会社 株式会社 コダマサービス 株式会社 ヒューマンエコーズ 株式会社 オカモト紙工 Nextgreen Crowning Package Pulp Molding Sdn. Bhd.

Webサイトのご案内

詳細情報(事業活動やCSRの取り組み情報など)につきましては、当社Webサイトをご覧ください。
<http://www.crown-grp.co.jp/csr/>

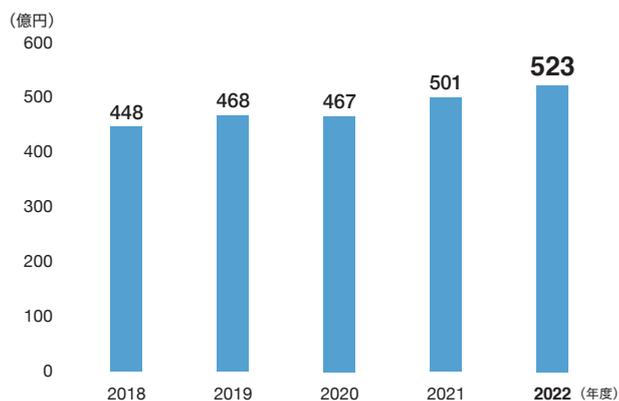


表紙について

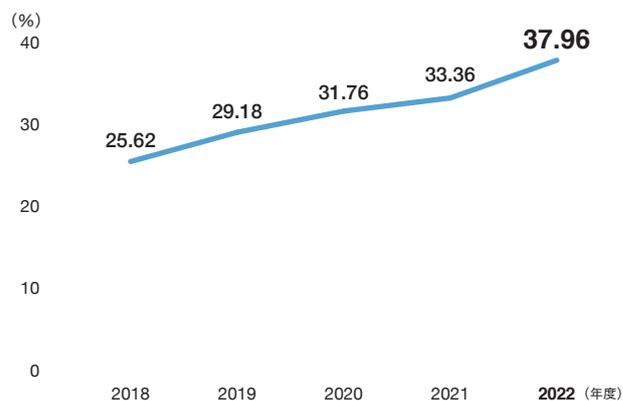
企業使命である「パッケージ文化の創造を通じて持続可能な社会の実現に貢献する」を表現。当社が開発した環境や社会に配慮した製品を掲げることで、これからは新しいパッケージ文化を創造していく意志をデザインに落とし込みました。空に向けて製品を掲げることで、未来へ向かっての希望を表現しています。



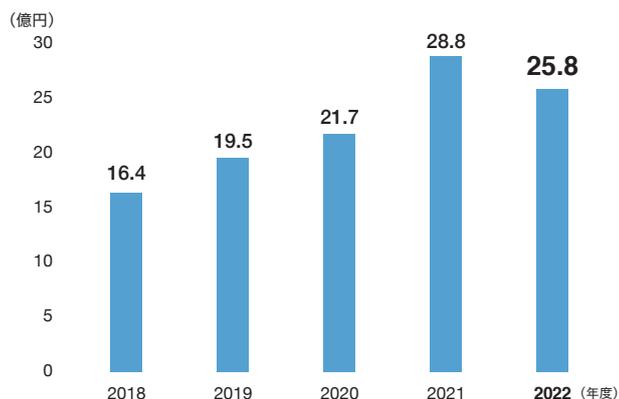
売上高



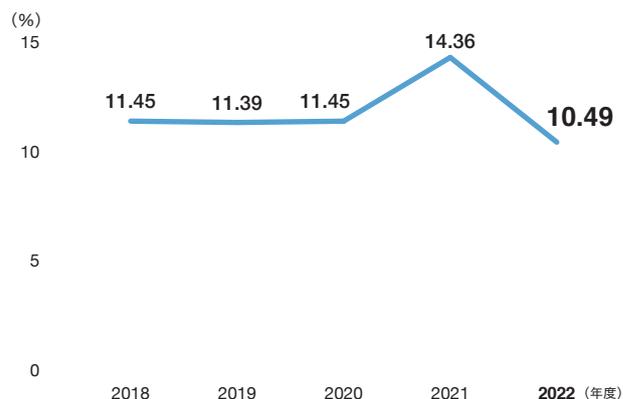
自己資本比率



経常利益



ROE



ユニバーサルデザイン(UD)の考え方にに基づき、より多くの人へ適切に情報を伝えられるよう配慮した見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

クラウン・パッケージは限りある地球環境の保全に積極的に取り組んでいます。本レポートは、環境に配慮したFSC®認証紙を使用しており、環境保護印刷推進協議会(E3PA)の認証を受けたグリーンプリンティング認定工場で作成されました。

クラウン・パッケージは、海と日本PROJECT推進パートナーです。